

会報

第57号(2020/11/19)

〒720-0082

広島県福山市木之庄町 4-3-14

Tel&Fax:084-917-5937

Mail:info@crcc-fukuyama.org



Community Renaissance
Research Center

今後の予定



ジェロントロジー研究会

11月27日(金) 14時〜

場所：ルネッサンス研究所

参加費：300円

内容：『地域包括ケアのすすめ』

(2)『地域包括ケアシステムの展開と在宅医療』から(P. 12)

宅医療』から(P. 12)

「ケアの社会学」を読む会

11月19日(木) 16時半〜

場所：ルネッサンス研究所

参加費：300円

読む本：上野千鶴子著『ケアの社会学』

内容：「第5章・7：家族介護とジェンダー

(P. 127から)

イギリスでは娘が母または父を介護する事が多いが、その場合家族に介護手当が支給されるとか。日本では娘の代わりに長男の妻。最近では夫婦それぞれの親の介護を行うことが多くなっているそうです。

今号の内容

- ・ 今、レジリエンスを考える
シニア世代の「生きがい」
「人間らしさ」
- ・ 高齢者の困った！パート2
- ・ NPOホームページ紹介
- ・ 続アヒルのポコちゃん・ペコちゃん物語
編集後記

※内容は以下に記載

今、レジリエンスを考える

シニア世代の「生きがい」「人間らしさ」

塩見 治人

寄稿くださった塩見さんの紹介

塩見先生は名古屋市立大学名誉教授です。本会の安川代表からコミュニティルネッサンス研究所の事を聞かれ、昨年、当NPOの調査に見えました。また大学院の卒業生と「希望の会」を作られ、昨年の夏にはそのグループで当NPOを訪ねて下さり、先生は私たちのNPO法人の会員になって下さいました。
今年の新年号で安川代表の挨拶にあった「レジリエンス」について関心を持たれた文章を寄せて下さいましたのでご紹介します。

今、レジリエンスを考える

シニア世代の「生きがい」「人間らしさ」

塩見 治人

私たちには「希望学研究会」という集まりがあり、過去10年あまり名古屋圏の地域研究を続け、地域の節目ごとに、リーマンショック後には『トヨタショックと愛知経済』(2011年)、東日本大震災後には『名古屋経済圏のグローバル化対応』(2013年)、平成大不況の中では『希望の名古屋圏は可能か』(2018年)と、3つの成果を本の出版という形で世に問うてきています。今、第4作目として高齢化に対応した「レジリエンスからの希望」プロジェクトが進行中であり、当「コミュニティルネッサンス研究所の安川代表理事、加納理事にも」参加いただいております。「こ」での「レジリエンス」という考え方は、年頭の『会報』第55号での安川理事の問題提起を受けたものなのです。そこで、私自身のささやかなその受け止めを紹介してみたいと思います。

1. 21世紀市民社会のシニア世代

いままでもなくわが国の高齢化は断トツ世界の最先端にあり、われわれは人類史で初めての経験の真っ只中です。わが国は、WHO(世界保健機構)の定義による65歳以上の人口の割合が7%を超える「高齢化社会」には670年に、その割合が14.5%を超える「高齢社会」には1995年に到達し、2010年にはその

割合が21%を超える「超高齢社会」になっているので、現在、65歳以上の人口は3500万人、高齢化率は28%を上回っています。

シニア世代が国民の約3分の1を占めるという事態は、民主主義の動向をさえも決めていくのではないかと論者もいます(寺島実郎『シルバー・デモクラシー』岩波新書、2017年)。勿論、従来の老齢年金、健康保険、税負担などに制度疲労が発現し、制度再調整が社会的課題となっています。さらに重要なことは、この事態が私たちの人生観、死生観への問いかけをも含んでいるのではないかとことです。

2. 「レジリエンス」とは何か



「レジリエンス」(復活の能力)とは、安川理事の場合、シニアの「生きがい」とは何か、シニアの「人生の意味」とは何か、シニアの「人間らしさ」とは何か、という思いと関連づけられています。

われわれシニア世代は、現役時代にはやりたくても十分できなかったことに邁進します。これからはゴルフ三昧だ、趣味をとことん深めたい、旅行で世界を巡りたい、コンサートや観劇やスポーツ観戦を楽しみたいなどなど、エンターテインメントから芸術まで広義の文化はわれわれに心からの人生の歓びを与えてくれます。私は、かつて広義の文化は、電気やガスや水道と同じライフラインのひとつではないか、と地域の新聞に書いたことがあります。人生の貴重な宝物です。とはいえ、これらのことは、本来、現役時代にも何とか工夫しながらやれることです。

しかし、人生にはもうひとつの心の深奥から湧き上

がってくるような歓びの世界がある。それはへしごととくの世界ではないのか。安川理事の真意は、たとえシニアになってもへしごとくをするべきである、という思いにあるのではないのでしょうか。

3. ポジティブエイジングの意味



この場合、へしごとくとは自分が自分以外の人にモノやサービスを提供することです。自分以外の人には他人と、さらに家族も含まれます。人類は、元始、人と人が労働をキャッチボールしながら生きてきました。こうして家族が生まれ、社会が成立してきたのです。広義のへしごとくとは、このような人と人とのキャッチボールのことで、勿論、対価を得る労働もそのなかに含まれます。安川理事の「レジリエンス」とはこのような広義のへしごとくを死ぬまで続けるべきだという意味である、というのが私の解釈です。

われわれにはみなへしごとくに歓びを感じるDNAが備わっています。自分以外の人にモノやサービスを提供した時、「ありがとう」のひとことで完全に報われてしまいます。不思議です。私が論文を書いた時も、「おもしろかった」と言われただけでまったく有頂天になれるし、「読んだよ」だけでも十分に満たされるものです。古代であれ現代であれ「もともと労働のなかには喜びなどはない」という論者もいますが(今村仁司『近代の労働観』岩波新書、1988年)、これは間違いです。ポジティブエイジングつまり積極的な高齢化とはへしごとくのことである、と私も主張したいのです。

4. シニア世代の居場所

今日の介護制度のもとで、65歳を超えるシニア層3500万人のうち要介護・要支援のシニアは約700万人、つまりわれわれのシニア社会は「元気なシニア」が80%、「元気でないシニア」が20%で構成されています。

80%を占める「元気なシニア」は、私の周囲を見渡してみても、69歳の元同僚は夫婦で月1回高齢者施設に向き茶会を開いています。78歳になる元同僚の義母は好きなカラオケ仲間と施設で月1回カラオケ大会を催しています。同世代なので曲目が合うと好評です。70歳になる近所の散髪屋さんは仲間と施設で月1回理容サービスを提供し、年1回扇川の清掃活動をして、いずれも喜ばれています。

このような小さな小さなモノやサービスの提供は、GDP統計には現れてきませんが、掛け合わせれば全国で相当の集積額となる社会参画であるはずです。

さらに、私は20%を占める「元気でないシニア」にも、厳しくても、へしごとくを求めたいと思います。私の祖母も母も92歳まで生きましたが、祖母はベッドに居ながら最後まで椅子に敷く毛糸のクッションを編み続けました。200枚近くになったと思います。が、周りからたいそう喜ばれました。母は近所の人を集めて毎月1回句会を巻き、それが168回に達しました。私は、毎回の選句をワープロさせられたので覚えているのです。老人精神科医の和田秀樹さんは、たとえ認知症になっても、若い時に編み物が好きだったなどの残存能力は消えないで在り

「その能力を他人のために役立てることができません」と書いています（『自分が高齢になるといふこと』新講社、2018年）。このようなワークの取り組みは、コミュニティルネッサンス研究所でも試みられているようです。

つまり、これからはすべてのシニアは「しごと」をもつて社会参画できるし、すべきなのです。勿論、フルタイムではありませんが。厳しすぎる社会像でしょうか。

5. 「生きがい」や「人生の意味」を求めて

今、21世紀の社会システムは新しい市民像への転換を求めているように思うのです。

戦後民主主義を主導してきた要求型責任追及型の市民は大きな役割を果たしてきました。例えば、名古屋圏では、この市民運動がゴミ焼却場を予定していた藤前干潟を保存し、万博会場予定だった海上（かいしよ）の森を守り抜きました。1974年には大気汚染の総量規制を全国に先駆け実施して都市公害をなくしました。要求型責任追及型市民は永遠です。あくまでそのプラスアルファとして、21世紀の市民社会は、当事者として「しごと」をする新しい問題解決型の市民を求めているのではないのでしょうか。このことは、わが国の3分の1を占めるシニア世代の「レジリエンス」における「生きがい」「人生の意味」の問題として、また同じように、要請されているのです。

(2020.10.18)



高齢者の困った！
ぜひに相談したら良いの
パート2

高齢者になると日々の生活を送る上で様々な点で「助けてほしい」と思うことが増えてきます。介護保険実施以降、様々なサービスが増えるとともに、それを利用する人の裾野も広がってきました。今回は、どんなことがどこで「助けてもらえるのか、事務局の澤田さんと考えてみましょう。」

I 日常生活にかかわる事項

1. 介護保険が使えるもの

認定を受けた被保険者は、次のような日々の暮らしを助ける事項をヘルパー（訪問介護員）に頼めます。

- ・ 買い物（日用品）、調理、洗濯、掃除、季節の衣類交換、ゴミ出しなど
 - ・ 日常の支払いをコンビニなどとする
 - ・ ケアプランで位置づけられた場合は、散歩の介助も依頼することができます
 - ・ 外出介助（買い物、投票、役所の届け、デイサービスの見学、お見舞いの介助、通院など）¹⁾
2. 有償ボランティアの利用など

ヘルパーの介護保険適用は限度があります。家具など大型の買い物、外食、趣味（旅行や映画等）、冠婚葬祭（結婚式や法事、葬式、墓参り等）、地域の祭りなどの外出は、保険適用にはなりません。

ん。趣味嗜好的なことは、保険適用外となりますが、介護サービス事業所等が保険外のサービスをを行っています。

① 地域のボランティアセンター

昨年、10周年記念行事「助け合いながら地域でくらす」を行いました。その時、御幸学区のボランティアセンターの活動報告では、ゴミ出し、庭の草取り、話し相手などの支援をされていました。

② シルバー人材センターなどの団体

助け合いの活動として庭木の剪定のほか、障子張り、家の片付けなど様々な仕事をシルバー人材センターや種々の団体に時間給で請け負ってもらえます。

II その他

1. 現金の引き出し、福祉サービス利用時の契約等

現金の引き出し等は、社会福祉協議会が実施している「日常生活自立支援事業」²⁾で利用者対象と認められた場合、利用できます。また、後述の「成年後見制度」を利用も考えられます。

2. 身元保証人

一般に入院³⁾、施設への入所、アパートを借りる等の場合、身元保証人が必要だと言われます。身元保証人になってもらえる人が身近にいない時は、ひとまず社会福祉協議会に相談するのも一つの方法です。（不動産屋に同行してもらえらる事も。）

3. 旅行

車椅子利用等介護が必要になった場合でも、助付きの旅行を行っている旅行会社に依頼すれば旅も可能です。

Ⅲ 判断できなくなった場合に備えて

1. 成年後見制度

財産の管理などが自分で判断できなくなった場合の心配もあります。認知症になった場合に備えて、判断能力が低下した人を法律面、生活面で保護、支援する制度「成年後見制度」があります。本人の判断能力が低下してから活用する「法定後見」のほかに、本人の判断能力が低下する前にあらかじめ指定した後見人と契約しておく、「任意後見」があります。

本人が、認知症になる前に今後の生活を考えておきたい時など、将来に備えて任意後見人を選んでおき、本人が認知症になった時は、任意後見人が家庭裁判所に申し立てをし、「法定後見」に移行できません。

契約によって次のようなことが依頼できます。

- ・ 財産管理(通帳、印鑑、権利書の管理、日々の支払い)
- ・ 見守り(身上監護、保護、支援)
- ・ 死亡後の事務処理
- ・ 公正証書遺言 など

2. その他

判断能力が低くなった時に備えて、「家族信託契約書」を公正証書として手続きしておく「家族信託」も注目されています。⁴

また、昨年、相続法が40年ぶりに改正し、遺言に関する事項も変更しています。



Ⅳ おわりに

「ちょっとしたお願いごと」を頼める知人を作っておくことは、大切なことだと思います。一般に日本人は、「助けて」と言いにくい人が多いと言われています。一番大事なのは、「助けてほしい」ことを自分で声に出すことではないでしょうか。そのためには、声を出しやすくする社会の仕組みづくりが大切なのではないかと思います。困った時は、そうした知人、友人、また、社会福祉協議会、地域包括支援センターや、弁護士会・司法書士会が行っている毎月の無料相談(市の広報にも掲載)の利用も。

1) 外出には、介護保険の対象となる乗降介助を目的とした車椅子対応の介護タクシーを使う方法もあります。

2) 日常生活自立支援事業は、社会福祉協議会が行っています。利用者が、日常的な金銭管理をする上で、生活支援員が、定期的に訪問し、情報提供、助言、契約、利用手続きの同行、代行をしてくれます。この制度の特徴は、対象を判断能力が不十分な人としつつも、あくまで利用者本人が福祉サービスの利用について決めることができるように意思決定や各種手続きを支援するところです。

3) 入院の身元保証人について、厚労省は「身元保証人がいないことだけを理由に医師が患者の入院を拒否することは医師法に抵触する(2018年4月27日)」と通知を出しています。

4) 家族信託は、判断能力の有無に関係なく、財産の管理ができなくなった場合に備えることができ、いつでも管理、委託、開始を代理人にもらうことができるのが特徴です。(NHKラジオ深夜便2020年11月号)

コミュニティルネッサンス研究所
ホームページをご覧ください

コミュニティルネッサンス研究所にホームページがあることをご存知ですか?
耐震診断等評価委員会の日程だけでなく、NPOの図書室にある本の目録や、このニュースレターも過去にさかのぼってご覧いただけます。
「コミュニティルネッサンス研究所」で検索できます。ぜひのぞいてみてください。



ホームページURL
<http://crrc-fukuyama.org>

連載

『あひるのポコちゃん』

『ポコちゃん物語』

②

辻村 真子

ペコちゃん卵を産む

おとなのからだになつてしばらくしたら、木の陰のところで卵を見つけました。ペコちゃんが生んだのでしょうか。アヒルの卵というのは、ニワトリの卵より大きいと聞いていたのに、同じぐらいの大きさでした。でも殻は固そうでちよつと緑っぽい色をしていました。その卵はそつとそのまま返しておきました。毎日一つずつ生み出したのです。アチコチに生んで、いくつかたまったけれど、温めるような様子はなかったので、お父さんが土を掘って穴に埋めました。ペコちゃんは知らん顔をしていたのでホツとしました。

そのうち近所のお友だちが卵を欲しいと言ってきたので、生みたてをあげました。食べたら、おいしかった！と言ってきました。お母さんは、集会所で子どもたちのための文庫を毎週開いていたので、アヒルや卵のことはすぐみんなに知れました。私たちも参加しているので、文庫の後、アヒルを見に来る子もたくさんあります。あんまり皆がおいしかったと言おうので、うちでもはじめて割ってみました。黄みが普通の卵より大きい感じで、目玉焼きの味は変わらなかつた。

ある時怜と私は、ペコちゃんの上にポコちゃんが乗っているところを見つけました。ペコちゃんは、頭のところの羽をポコにしがみついているようで、鳴き声をあげてつらそうにみえました。怜は「ペコちゃんがかわいそう！」と叫んでやめさせようと思いました。そうしたらお母さんが、「アヒルたちは大切なお仕事をしていて、そつとつて生んだ卵は、ひよつとしたらひよ

にかえるかもしれないので、そつとしておいてね」と説明してくれました。ペコちゃんはそのあと、何事もなかつたような顔をしてさつとプールで水浴びを始めたので、怜と私は安心しました。それからは同じ場面を見ても怜は叫ばなくなりました。ただ、ペコちゃんの頭のてっぺんは少し羽がとれて、はげているように見えました。

11月ごろから、だんだん寒くなるとペコちゃんは卵を生まなくなりました。2月の終りごろから、また一つずつ生み始めることもわかってきました。ニワトリでも同じなのかなあと、ちよつと不思議な気持ちになりました。

小学生になった怜は、絵も作文も工作も……

いつの間にか2、3年過ぎていきました。怜は絵が好きだったので、アヒルたちの姿をよくお絵かき帳に描いていました。ちよつと夏にはアヒルたちの羽が生え代わるので、庭のあちこちに抜けた羽が落ちていて、それでインデアンしゅう長のよな頭飾りを作ったり、短くなつた鉛筆に羽を付けて筆ペンみたいなものを作ったりして楽しんでいました。宿題の日記ではよくペコちゃんポコちゃんのことを書いていました。私も、一度や二度は作文を書いたこともあります。

小学一年生の、怜の『あのねノート』から

「ぼくのうちには、アヒルを二羽かっています。アヒルの名まえはポコとペコです。ちいさいとき、みんなからフジヤちゃんと呼ばれたこともあります。アヒルはたまごをはるからあきまでしか生みません。今年生みはじめたのは、2月27日からです。たまごは一日にひとつ生みます。生んだらたまごやきにして食べます。ときどき、きんじょの人にもあげます。こんど生んだら先生にもあげます」

二年生の日記から

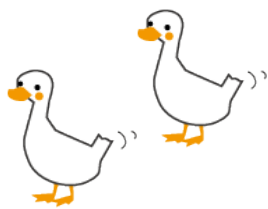
「きのうアヒルのハネをあつめて本をつくりました。その中には、かたいハネや、やわらかくてふわふわのハネなどがあります。つくりおわると、ぼくはおとなになつても、そのままとおきたいと思いました。できたときはヤッターと思つて、すぐにお母さんにみせました。」

「あひるのまえにかおをむけると、目、はな、口、手のどれかをかみつくのです。それはいいけど、ひねるからいたいです。」
三年生の日記

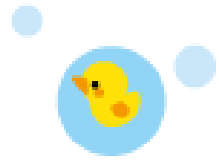
「きょうは日記をかこうとしていたら、アヒルがガーガーとうるさくないでいたので、日記がかけなくなつたので、白菜を二枚あげました。すると、ポコペコが、よかつたよかつたと言つたようにガガガッガガッとするので、よかったです。まっさきにペコが白菜にとびつきました。ポコの方は、ぼくにおじぎをして白菜を食べはじめました。それならうるさいのはピタツと止まっています。それからは一声もきこえず、ぼくはすらすら日記を書けました」

ペコちゃん卵を温め始める

うちに来てから3年ぐらいたつた5月ごろ、ペコちゃんは卵を一所所に生むようになりました。木陰で少しくぼみのあるようなところがいいです。フつか8つたまると、それからはしばらく生むのをやめて温めだしたのです。毎日まいにち動かずに



じつと卵の上になすわっています。いつか飯を食べているのか、いつ見ても同じポーズなのです。私たちは、いつひよこがかえるのか、息をひそめて様子を見ていました。



その間のポコちゃんにも大きな変化がありました。毎朝、私と怜が学校に行くとき、100メートルほど先の曲がり角までついてくるのです。まるで見送りにきてくれるみたいでした。いつも同じところまで付いてきたら、くるりと向きを変えてものすごい勢いで家に向かって帰って行きます。似たような広さの家が数件並んでいたのに、自分の家を間違えることはありません。家の前では急ブレーキをかけるみたいにして庭に入っていきます。きつとポコちゃんが相手にしてくれないので、退屈のぎにこんな行動をしたのでしょう。また、お父さんが夕方帰ってくると、ガガガツと鳴きながら車庫のところまで迎えに行くようにもなりました。

ポコちゃんは、二週間ほど温めて、ぶつりその卵を温めることを止めてしまいます。ひよこにならないことがわかったのか、あきらめたようでした。どつしてわかるのか、とても不思議な出来事です。お父さんはまた穴を掘って卵を埋めました。

そして、ポコはまた何日かしたら場所を変えて同じことをくり返します。ポコちゃんもお父さんも同じことをくり返しました。ポコちゃんがかわいそうになりました。卵には有精卵と無精卵という二種類があるという難しい話をお母さんから聞きました。どつやあとの無精卵という方なのかもしれません。

でも、ある時お母さんのお友だちがどつしてもひよこが欲しいということ、卵をいくつか持って帰り、ニワトリのふ卵所というところに預けたそうです。何日か経ったら、その中の一羽だけがひよこになったと大喜びの連絡がありました。犬をかっている家だけれど、一匹と一羽はとも仲良しで、散歩にはひよこもいつも一緒に行くという話でした。見てみたかったなあ。その卵は有精卵だったということでしょうか。どうやらメスだったみたいです。

暑い夏も終わり、9月1日の二学期がはじまりました。そのころなん回目かの挑戦をポコちゃんはしている最中でした。ポコちゃんは私たちの二学期初めてのお見送りをいつも通りしてくれました。

ついに、その日事件はおきたのです。 (つづく)



編集後記



今年も残すところあと一ヶ月ばかりとなりました。皆様にとってどのような1年だったでしょうか。コロナ禍もあり、例年以上に大変だったり辛い思いをされた方もいらつしたのではないのでしょうか。

感染症対策として季節を問わずマスクの欠かせない日々が当たり前となりました。消毒液を持ち歩いたり、なるべく買い物はまとめて短時間で済ませたり、家族の体調管理にこれまで以上に気をつけたりと、何かと気を遣いながら日常をお越しの事と思います。

ストレスは溜まっていますか？

無理をして頑張りすぎておられませんか？

NPOでは平日誰かが出勤しております。お話を聞く事ぐらいしか出来ないかもしれませんが「誰かとおしゃべりしたいな」「外に出て気晴らししたいな」と思われたら、ぜひお立ち寄りください。お待ちしております。

(兼)

NPOへのお便り募集!



「ミルネでは皆様からのお便りを募集しています。」「感想・ご意見などをTEL・FAX又はメールアドレスにお寄せ下さい。」

問い合わせ・申込先

NPO法人コミュニティルネッサンス研究所

電話・FAX: 084-917-5937

メール: info@crcc-fukuyama.org